

開催日	平成24年6月22日(金)14:30～17:00 南区社会福祉活動拠点 多目的ルーム
参加機関・担当者	<p>担当者: 佐藤氏(民衆館)・水越氏(コスモス南太田)・新倉氏(ホームコスモス)・畠山氏(コスモス蒔田)・平山氏(中央浩生館)・石黒氏(浦舟園)・押見氏(市大医療センター)・大貫氏(発達障害者支援センター)・武藤(サザンウインド)</p> <p>二次相談機関: 大澤氏(総合医療保健センター)</p> <p>事務局: 中村氏、大野氏(南海)、井出村氏(区社協)、吹上(南区)、長尾氏(サザンウインド)</p>
主な議題	<p>1、自己紹介</p> <p>2、平成24年度南区地域自立支援協議会専門部会について(資料1)</p> <p>3、事例検討</p> <p>4、その他連絡事項</p>
会議記録	<p>1、自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者の全員に自己紹介を実施する。 <p>2、平成24年度南区地域自立支援協議会専門部会について</p> <ul style="list-style-type: none"> 長尾氏が資料1に基づいて、精神部会の活動について説明する。 <p>3、事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の専門部会で決定したとおり司会を吹上氏、事例提出者を井出村氏で事例検討を実施する。 事例タイトル「南区ボランティアセンターにボランティア活動をしたいと相談してきた人への対応について」井出村氏が社会福祉協議会のリフレットを資料に社協の成り立ちとボランティアセンター事業の概要を説明する。 検討事項「精神障害当事者のボランティア活動希望への対応について」 事例①福祉や介護の仕事をしていたが体調を崩し退職となる。ボランティアセンターには再登録してボランティア希望の相談を入れる。ボランティアの紹介は難しいと判断し、保留として施設利用の紹介をする。そちらではボランティアではなく利用者として来所する。その後、施設を利用することで仲間との出会いがあり、他の社会参加の場所へと移っていった。 事例②人とかかわりがない片付けや軽作業のボラを希望するが、相談機関を利用しながら考えていくよう対応する。 事例検討の進め方に沿って、会場からの質問を通して事例を深めて行き、対応方法については各参加者から意見を出してもらい形を取っている。 意見としては、裏にあるニーズを探ることがポイントで具体的な希望を聞き出すことが重要である。実際、受け入れ側の事情があり現状が課題になる。また更生施設で、入所者が地域でボランティア活動をすることで、本人のモチベーションを高め、地域の理解や顔の見える関係が築けている実践例の紹介があった。 検討の時間ではピアサポートも含めボランティアの可能性はあるのでコーディネーター役が見極める必要がある。ボランティアにつなげ、フォローすることも大切。連携するにあたりフォーマットの共有も有効である。希望者が自己実現する支援計画を立てていく。また地域に活動の場を作っていく必要があるとまとめる。 最後に提供者からボランティアの相談があった時は連携の協力依頼があった。 <p>4、その他連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ご近所フォーラムの周知 障害者自立生活アシスタントのシンポジウムについて 次回は9/18(火)15:00～17:00 南区社会福祉活動拠点 多目的ルーム
今後の課題	<p>①裏にあるニーズを探り、見極め支援計画を立てる相談支援員のスキルアップ。</p> <p>②相談のその後の希望や問い合わせがないことからフォローアップ体制の充実。</p> <p>③施設が受け入れる余裕がない現状。</p> <p>④施設側を対象としたボランティアの講座の開催について。</p> <p>⑤ボランティアという想いを実現できる地域づくり。</p>